

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年11月6日

**【四半期会計期間】** 第82期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

**【会社名】** 塩水港精糖株式会社

**【英訳名】** Ensuiiko Sugar Refining Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 山下 裕 司

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

**【電話番号】** 東京(03)3249-2381(代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経理担当 内海 和 男

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

**【電話番号】** 東京(03)3249-2381(代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経理担当 内海 和 男

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第81期 第2四半期 連結累計期間	第82期 第2四半期 連結累計期間	第81期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	13,593	13,154	27,273
経常利益	(百万円)	298	343	583
四半期(当期)純利益	(百万円)	150	232	270
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	311	167	363
純資産額	(百万円)	6,490	6,482	6,538
総資産額	(百万円)	25,921	24,994	25,416
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	5.62	8.65	10.06
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	25.0	25.9	25.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	68	365	924
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	116	231	368
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	204	396	616
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,169	1,109	1,368

回次		第81期 第2四半期 連結会計期間	第82期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	2.02	3.74

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策の効果もあって緩やかな回復基調にあるものの、消費税率引き上げに伴う消費低迷の長期化などにより依然として先行き不透明な状況にあります。

砂糖業界におきましても、加糖調製品などの影響による砂糖消費量の漸減傾向が続き、消費動向は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは基幹事業である砂糖事業（国内精糖及びその他糖類）並びにバイオ事業における売上高・利益計画の達成に向けて全力で取り組んで参りました結果、当期の業績及びセグメントごとの業績は以下のとおりとなりました。

#### 砂糖事業

海外原糖市況につきましては、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）は17.77セントで始まり、エルニーニョの発生懸念により一時値を上げ5月中旬には18.28セントの高値となりました。その後主要生産国であるブラジル中南部のサトウキビ収穫ペースが順調であったことから下げ基調に転じ、9月中旬には13.32セントの安値となり、結局15.48セントで当期を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり）につきましては、期初185～186円で始まり、同一水準のまま当期を終了しました。

国内精糖及び異性化糖などの国内販売につきましては、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動及び需要期における天候不順等の影響により、販売数量は前年同期を下回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は12,128百万円（前年同四半期比3.2%減）、セグメント利益は759百万円（前年同四半期比7.0%減）となりました。

#### バイオ事業

オリゴ糖につきましては、家庭用「オリゴのおかげ」の商品価値の啓蒙と正しい使い方などの理解普及に引き続き努めサンプリングなどを積極的に実施しましたが、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動等により、前年同期をやや下回りました。一方、サイクロデキストリン（CDと略称。）につきましては、食品分野のほか、非食品分野への拡販に努めるとともに、血糖値上昇抑制と体脂肪蓄積抑制作用を有する「サラシア属植物」を原料とする加工製品「サラシア属植物エキス末」の販売にも努めた結果、売上高が前年同期を上回りました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は668百万円（前年同四半期比2.0%減）、セグメント利益は66百万円（前年同四半期比12.8%増）となりました。

#### 不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸及びニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は400百万円（前年同四半期比6.8%減）、セグメント利益は23百万円（前年同四半期比0.6%減）となりました。

以上の結果、当期の売上高は13,154百万円（前年同四半期比3.2%減）、営業利益は316百万円（前年同四半期比14.8%減）、持分法適用会社の業績改善に伴う持分法投資利益の計上等により、経常利益は343百万円（前年同四半期比15.2%増）、四半期純利益は232百万円（前年同四半期比53.9%増）となりました。

研究開発につきましては、抗がん剤の副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」の実用化を目指し、引き続き共同研究を進めております。また、「米粉を原料とした乳化機能を有する食品素材」の開発につきましては、大量生産製法技術の実用性評価を行い、商品化へ向けて食品への利用開発に取り組みました。さらに、パイオプラステックの原料となり得る「グルカル酸」の安価な製造法の開発並びに応用研究に取り組みました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べて258百万円減少し、1,109百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、365百万円（前年同四半期比296百万円の増加）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益343百万円、減価償却費352百万円、売上債権の増減額340百万円等による資金の増加があった一方で、たな卸資産の増減額416百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、231百万円（前年同四半期は116百万円の資金支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出189百万円、貸付金による純支出40百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、396百万円（前年同四半期は204百万円の資金支出）となりました。

これは主に、配当金の支払161百万円、借入金返済による純支出234百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対応すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の総額は、67百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,000,000	35,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数は100株
計	35,000,000	35,000,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		35,000		1,750		345

(6) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	平成26年9月30日現在	
		所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
塩水港精糖株式会社	東京都中央区日本橋堀留町2丁目9-6	7,890	22.54
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3-1	3,990	11.40
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	1,354	3.87
CREDIT SUISSE (LUXEMBOURG) S.A. ON BEHALF OF CLIENTS (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	56, GRAND RUE L-1660 LUXEMBOURG (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	700	2.00
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	603	1.72
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋2丁目5-2	550	1.57
大東通商株式会社	東京都新宿区市谷台町6丁目3	500	1.43
南西糖業株式会社	東京都千代田区岩本町3丁目2-9	500	1.43
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	388	1.11
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	350	1.00
計	-	16,825	48.07

(注) 南西糖業株式会社が所有している上記株式については、会社法施行規則第67条の規定により議決権の行使が制限されております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,890,500		権利内容になんら権限のない 当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 500,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,604,600	266,046	同上
単元未満株式	普通株式 4,900		同上
発行済株式総数	35,000,000		
総株主の議決権		266,046	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式84株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 塩水港精糖株式会社	東京都中央区日本橋 堀留町2丁目9-6	7,890,500	-	7,890,500	22.54
(相互保有株式) 南西糖業株式会社	東京都千代田区岩本町 3丁目2-9	500,000	-	500,000	1.43
計		8,390,500	-	8,390,500	23.97

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,368	1,109
受取手形及び売掛金	1,966	1,625
商品及び製品	729	1,385
仕掛品	235	230
原材料及び貯蔵品	1,238	1,001
繰延税金資産	135	86
その他	1,118	1,155
流動資産合計	6,791	6,595
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,655	9,663
減価償却累計額	5,327	5,442
建物及び構築物(純額)	4,328	4,220
機械装置及び運搬具	11,109	11,135
減価償却累計額	9,451	9,585
機械装置及び運搬具(純額)	1,657	1,550
工具、器具及び備品	417	448
減価償却累計額	362	370
工具、器具及び備品(純額)	54	77
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	39	36
有形固定資産合計	11,314	11,120
無形固定資産		
ソフトウェア	62	47
その他	11	6
無形固定資産合計	73	53
投資その他の資産		
投資有価証券	4,946	4,834
長期貸付金	1,381	1,427
繰延税金資産	823	885
その他	85	76
投資その他の資産合計	7,236	7,224
固定資産合計	18,624	18,398
資産合計	25,416	24,994

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	981	992
短期借入金	8,700	7,630
1年内返済予定の長期借入金	3,117	2,600
未払法人税等	125	51
未払消費税等	93	216
賞与引当金	80	80
その他	1,123	865
流動負債合計	14,221	12,436
固定負債		
長期借入金	3,293	4,646
退職給付に係る負債	1,045	1,086
その他	317	342
固定負債合計	4,656	6,075
負債合計	18,878	18,511
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,932	7,942
自己株式	3,117	3,117
株主資本合計	6,832	6,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	280	348
繰延ヘッジ損益	11	6
退職給付に係る調整累計額	3	4
その他の包括利益累計額合計	294	359
純資産合計	6,538	6,482
負債純資産合計	25,416	24,994

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	13,593	13,154
売上原価	11,434	11,028
売上総利益	2,159	2,125
販売費及び一般管理費	1 1,787	1 1,809
営業利益	371	316
営業外収益		
受取利息	20	19
受取配当金	55	55
持分法による投資利益	-	9
その他	6	8
営業外収益合計	82	93
営業外費用		
支払利息	68	57
持分法による投資損失	81	-
その他	6	9
営業外費用合計	156	66
経常利益	298	343
特別利益		
投資有価証券売却益	10	-
特別利益合計	10	-
特別損失		
投資有価証券売却損	15	-
ゴルフ会員権評価損	-	0
特別損失合計	15	0
税金等調整前四半期純利益	293	343
法人税、住民税及び事業税	100	55
法人税等調整額	42	55
法人税等合計	143	111
少数株主損益調整前四半期純利益	150	232
四半期純利益	150	232

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	150	232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	146	59
繰延ヘッジ損益	0	4
退職給付に係る調整額	-	0
持分法適用会社に対する持分相当額	13	9
その他の包括利益合計	161	64
四半期包括利益	311	167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	311	167
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	293	343
減価償却費	360	352
退職給付引当金の増減額（は減少）	61	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	-	54
賞与引当金の増減額（は減少）	3	0
貸倒引当金の増減額（は減少）	14	-
受取利息及び受取配当金	76	75
支払利息	68	57
為替差損益（は益）	7	2
持分法による投資損益（は益）	81	9
投資有価証券売却損益（は益）	4	-
ゴルフ会員権評価損	-	0
売上債権の増減額（は増加）	300	340
たな卸資産の増減額（は増加）	482	416
仕入債務の増減額（は減少）	298	10
その他	41	69
小計	130	476
利息及び配当金の受取額	72	75
利息の支払額	84	57
法人税等の支払額	57	129
法人税等の還付額	8	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>68</b>	<b>365</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	169	189
無形固定資産の取得による支出	12	3
投資有価証券の売却による収入	98	-
貸付けによる支出	510	530
貸付金の回収による収入	469	489
その他	7	1
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>116</b>	<b>231</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,500	1,070
長期借入れによる収入	-	2,600
長期借入金の返済による支出	1,569	1,764
配当金の支払額	134	161
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>204</b>	<b>396</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	3
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	245	258
現金及び現金同等物の期首残高	1,414	1,368
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,169	1 1,109

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日至平成26年9月30日)	
(会計方針の変更)	
<p>「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。</p> <p>この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が94百万円増加し、利益剰余金が60百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。</p>	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)	
太平洋製糖(株)	376百万円	太平洋製糖(株) 298百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
製品保管輸送費	452百万円	445百万円
販売促進奨励金	315百万円	313百万円
給料手当賞与金	283百万円	272百万円
賞与引当繰入額	62百万円	59百万円
退職給付費用	27百万円	25百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	1,169百万円	1,109百万円
現金及び現金同等物	1,169百万円	1,109百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	135	5.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	162	6.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,512	668	413	13,593	-	13,593
セグメント間の内部売上 高又は振替高	10	13	16	40	40	-
計	12,522	682	429	13,634	40	13,593
セグメント利益	816	58	23	898	526	371

(注) 1 セグメント利益の調整額 526百万円には、セグメント間取引消去 9百万円、各報告セグメントに配分して  
 いない全社費用 517百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理  
 費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,117	652	384	13,154	-	13,154
セグメント間の内部売上 高又は振替高	10	16	16	43	43	-
計	12,128	668	400	13,197	43	13,154
セグメント利益	759	66	23	848	531	316

(注) 1 セグメント利益の調整額 531百万円には、セグメント間取引消去 7百万円、各報告セグメントに配分して  
 いない全社費用 524百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理  
 費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更  
 したことに伴い、報告セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更いたしました。

なお、当該変更による各報告セグメント利益又は損失に及ぼす影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円62銭	8円65銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	150	232
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	150	232
普通株式の期中平均株式数(株)	26,859,926	26,859,926

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月6日

塩水港精糖株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	出	口	賢	二	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	齊	藤	直	人	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている塩水港精糖株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、塩水港精糖株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。